



## 明るく未来志向で いきましょう

友景 肇\*

問題のない組織はありません。組織を構成するメンバーがアクティブに動けば、必ず内部に問題が発生します。もし問題が何もなく、しゃんしゃんと事が運ぶ組織があったとしたら、それは死に体の組織だと思います。ご多分に漏れず、もちろん色々の問題をJIEPも抱えています。

一方、JIEP会員には共通の想いがあります。日本の半導体産業が強かったときには、当然のように強かった実装技術が、地球儀の上で半導体産業の重心点が日本から西に移動するとともに強いと言えなくなりつつあります。これまで強かった実装分野を再度盛り返し、日本のプレゼンスを示してほしい、という想いです。

新しい理事会メンバーのなすべきことは何か。会員の想いを1つの方向に結集できるように方向性を示す。ベクトルが180度ずれていけば、打ち消し合って消えてしまいますが、プラス・マイナス90度以内に入っていれば、ベクトル合成すれば、必ずある方向に想いを結集することができます。理事会メンバーでベクトルを合わせ、方向性を示すことだと思います。

英語論文誌 Transactions of The Japan Institute of Electronics Packaging が昨年刊行されました。日本の実装技術を論文として海外へ情報発信する仕組みが出来ました。海外からの投稿者を増やすとともに、韓国や台湾などアジアの実装関連機関と連携し、海外からの会員を増やせば、まだまだ大きくなる可能性をJIEPはもっています。企業に所属している会員が多数を占めるJIEPは、大学など研究教育機関所属者が多数を占める学会とは違って、企業の倫理観で支え合い連携できる学会活動を展開できる可能性があります。また、永年に渡って実装分野で活躍された先輩方がJIEPという枠組みの中で社会との繋がりを維持できるような仕組みができれば、学会活動を長く続けられます。

外に出て風に当たれば、冷たく厳しい状況です。幾分持ち直してきましたが、過去8ヵ月は半導体関係以外でもどん底の状況でした。誰も1年前には予想できなかったことで、これから先も景気は変動し、冷たい嵐が吹き荒れることはあります。暖かな室内にこもって、好きな学会活動だけを続けられる状況はありえないでしょう。しかし、技術を支え、盛り上げる学会活動は大事です。技術立国として生きていくという日本の選択肢は、まだまだたくて大事だと多くの人が認めています。日本の中だけでは半導体産業は成り立たないので、海外との連携を推進しながら、JIEP関係企業が勝つ方向を示す。ベクトルが揃えば、日本のエンジニアは強い力を発揮できます。

寒風の中でも遠くを見据えた方向を示し、ベクトルを揃える。過去の歴史も大事ですが、明るく未来志向でいましょう。